

### ◆ “ゲーム依存症” 問題

冬休みが近づき、子ども達は、どこか楽しげです。学校が長い休みになるので、当たり前ですが、子ども達に「冬休み中の楽しみは何？」と訊ねてみました。「やっぱりクリスマスかな。」「お年玉が結構貰えます。」等々…。その中に、ある男の子が気になることを言っていました。

「一日中、ゲーム三昧(ざんまい)の毎日を送れることです。」→ (-\_-;) <私>  
これは、ある程度予想していたことですが、5月に船小全児童対象で行ったインターネットやゲームに関するアンケート調査の結果を思い出しました。



船小ハイブリッドパワー No. 6(R3.6.18 発行)でお伝えしたように、ネットに接続できる自分用の機器を持っている子は、全児童の60%以上に上ります。多くはプレイ・ステーションやニンテンドー・スイッチ等のゲーム機(自分でゲームを楽しむだけでなく、ネット接続できて見知らぬ相手と対戦型ゲームなどができる)と思われるのですが、自分の意志だけでゲームを打ち切ることができなくなる状況になります。また、利用時間などの家庭のルールを決めていないと答えた児童が100名おりました。(子どもによっては、親が話す時間制限の言葉をスルーしているのかも知れませんが…)冬休み中に多くの子がゲーム依存になりはしないかと心配になります。

20年近く前になりますが、我が家の息子達にはゲーム機を買い与えませんでした。ところが、当時は船引町にも中古ゲーム機を売っている店があったので、2人とも小遣いを貯めて、いつの間にかゲーム機を買ってしまいました。仕方がないので、「平日30分以内、休みの日1時間以内、ゲーム機はリビングに置き、親の前でだけ使う」というルールを決めました。息子はルールを守って小学校卒業とともにゲームも卒業、娘は2回ほどルールを破り、1ヶ月以上、私がゲーム機を預かるというペナルティーを受けましたが、やはり小学校卒業とともにゲームを卒業しました。今より時代が良かったと思いますが、ゲーム依存にならなかったのも、その後の学生時代、そして大人になってもスマホでゲームをやらないのではないかと考えています。

県内で小学6年生～中学3年生の20名程度がゲーム依存症の医療的ケアを受けているそうです。依存症になってしまうと自分や家族では治すことが難しいということでしょう。楽しい冬休みで悲しい状況にならないようにしたいものです。

### ◆ SNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)の功罪 その2

前号でSNS, LINE(ライン)の功罪についてお知らせしましたが、船引中でもSNS問題については苦慮しているようです。親も先生も知らないところで、トラブルが静かに進行してしまうからです。



ある他地区の中学校では、深夜に及ぶ生徒達のLINEのやり取りで寝不足や勉強不足が問題になり、グループの親同士が話し合っ、LINEは夜9:00までとルールを決めたそうです。それでも、問題の全面解決は難しいようです。まずは、スマホ依存にならないための1つの方法『スマホを寝室に置かない』が肝要かと思えます。

学校と家庭がタッグを組み、一つ(ハイブリッド)になって2倍以上の力(パワー)で効果的に子どもたちを育てたいと願い、校長室だよりを『船小ハイブリッドパワー』と名付けました。